

9 オーストラリア

Australia

基礎データ	人口	2,601万人(2022年)	日本との関係	日系企業数	846社(2022年)
	名目GDP	1兆6,930億米ドル(2022年)		在留邦人数	99,830人(2023年)
	1人当たりGDP	65,100米ドル(2022年)		日本食レストラン数	2,000店(2023年)
	名目GDP成長率	4.3%(2022年)			

1 市場の特性と消費の動向

日本食ブームでコメ需要は高まるものの、他国・地域産との競争は激しい

A 市場の特性

オーストラリアのコメ消費量は増加を続けており、2021年は37万トンでしたが、2023年は約41万トンとなっています。国内の生産量は消費量を上回っていますが、輸入が消費量の半分以上を占めており、国内生産の一部は国内需要を満たすためではなく、輸出が目的となっていることが分かります。なお輸出は、SunRice社1社のみが扱えることになっています。ジャポニカ米を中心とする国内生産は天候などの要因によって大きく変動しますが、長粒種を中心とする輸入米の消費量は安定しています。

中国やインドなど、コメが主食のアジア系オーストラリア人の人口増加を反映して消費が増えており、1人当たりのコメの年間消費量は14.24kgと推定されています。

長粒種の主な輸入先はタイ、インド、ベトナム、パキスタン等であり、ジャポニカ米の場合はイタリア、台湾、アメリカ、日本等が挙げられます。

B 消費の動向

アジア料理の普及に伴い、様々な種類のコメ(ジャスミン、バスマティ、ジャポニカなど)が主食として注目されるようになっていきます。アジアの影響を受けた家庭料理に加え、寿司店の増加もコメ、特に「コシヒカリ」の需要を押し上げ、外食店を中心に高級品種の需要が近年高まっています。

また、米菓、餅、米麺も、地元市場で目立つ存在となっています。特に米菓は、ヘルシーな間食への注目の高まりから、安定した需要があります。

表-1 コメの生産・消費・輸出入の状況

MY(7月~翌6月)	2021	2022	2023
生産量(千トン)	498	374	522
消費量(千トン)	370	380	410
輸出量(千トン)	218	275	280
輸入量(千トン)	244	225	200

(出典)USDA(精米ベース) 2024年1月30日時点

表-2 日本からのコメの輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	893	1,245	1,204
輸出単価(円/kg)	317	314	321

表-3 日本からの米菓の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	135	160	146
輸出単価(円/kg)	873	827	960

表-4 日本からの包装米飯等の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	4	5	4
輸出単価(円/kg)	578	621	906

(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く) 2024年1月30日時点

コメの主な輸入先国・地域

タイ、インド、ベトナム、パキスタン、カンボジア、イタリア、米国

2

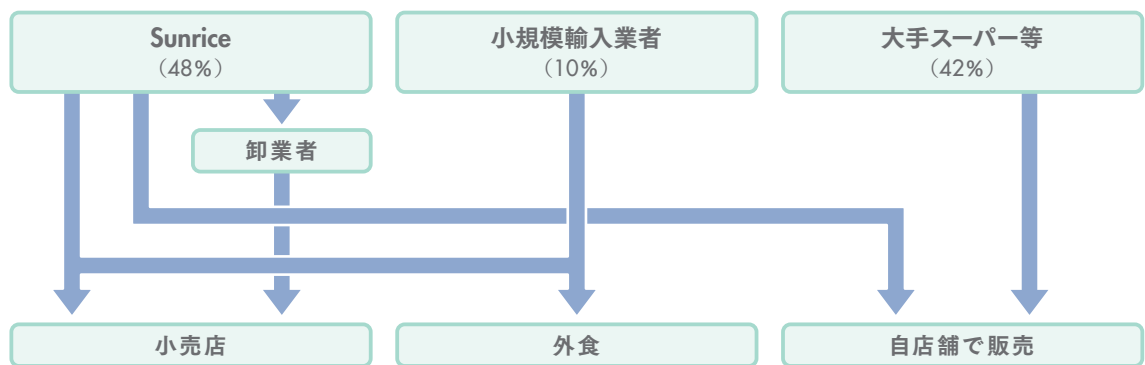
流通チャンネルと取引慣行

国内ブランドSunRiceがジャポニカ米市場をほぼ独占

A 日本産米の流通経路

オーストラリアのコメ市場では、生産者組合が主に現地産のコメ（ジャポニカ米）を「SunRice」のブランド名で販売しています。SunRice社は生産から精米、販売に至るまでを一元的に担っており、国内でのコメの流通はSunRice社によって管理されています。また、SunRice社は輸入についても大きなシェアを占めており、その輸入量は全体の約半分に相当します。大手スーパーマーケット（Coles, Woolworth）やCostcoのようなウェアハウスクラブが輸入の約4割を扱っており、残りの1割は小規模輸入業者が占めています。これらの小規模輸入業者には、日系商社や中華系商社が含まれており、彼らが日本を含むアジア諸国からコメを輸入しています。

なお、インタビューによれば、各段階におけるそれぞれのマージン（利益幅）は輸入業者、卸業者、小売業者いずれも約20%となっています。



(出典)現地での聞き取りなど

B 取引慣行

日本産米が、日本の生産者／米卸売業者によって輸出されてからオーストラリアの小売店舗に並ぶまでに最短でも約2か月かかります。赤道を越える輸送になるため、品質管理対策が重要です。

3

関税割当枠と関税

コメ、包装米飯、米菓の関税は0%

■ 関税割当枠

オーストラリアでは、コメ・コメ加工品に対する関税割当枠の設定はありません。

■ 関税

コメ、包装米飯、米菓の関税は0%です。

玄米は植物検疫証明書が必要

A 検疫制度

日本からのコメには日本からの植物検疫証明書が必要です。販売用に包装されていない場合には、輸入許可の申請は必要ありませんが、輸入時に検疫検査が課されます。

玄米は2016年5月の日豪植物検疫協議の結果、輸出が可能となりましたが、以下の輸出検疫条件をクリアする必要があります。

- ① オーストラリアに住所を持つ輸入業者が、オーストラリア政府発行の玄米処理施設の情報が入力された輸入許可証を取得すること。
- ② 輸入許可書を取得するためには、次の3通りの「出芽対策」のいずれかを実施し、必要な関連書類の提出が必要です。
 - 出芽テスト(オーストラリア到着前あるいは到着後)
 - 湿潤環境下加熱処理(オーストラリア到着後)
 - 精米処理(オーストラリア到着後認可された精米所にて)

B 食品規制

■ 製品表示の内容

オーストラリアで販売するコメは、オーストラリア・ニュージーランド食品基準コード (FSANZ) 及び「原産地ラベリング情報に関する2016年基準法」により、次の項目の表示が義務付けられています。

- a. 食品名、ロット識別情報、供給業者(卸売業者、販売業者、輸入業者など)の名称と所在地
- b. 原材料リスト
- c. 原産地表示
- d. 賞味期限、消費期限(期限が2年以上の場合を除く)
- e. 使用方法および保存方法(必要に応じて)
- f. アレルギー成分などに関する警告・注意喚起・告知
- g. その他の特定含有成分
- h. 遺伝子組み換え技術による加工(該当する場合)
- i. 栄養表示(エネルギー、タンパク質、脂肪、炭水化物、糖類、ナトリウム)
- j. 放射線照射の有無(食品全体または一部の原材料)

■ 残留農薬基準

食品安全基準の第1章4節「汚染物質と残留物に関する規定」に記載されています。同規定ではポジティブリスト方式が採用されており、それぞれの農薬ごとに対象となる食品と最大許容量が明記されています。同リストの最新版をご参照ください(<https://www.legislation.gov.au/Series/F2015L00468>)。

■ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した輸入規制

2014年1月23日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う日本産食品の輸入規制は撤廃されました。

日本産米は外国産米の2倍以上

A コメの販売価格

日本産米は他国産のジャポニカ米と比べて非常に高価であり、輸入量も限られています。例えば、台湾産や米国産のジャポニカ米の小売単価は2.19豪ドル～5.75豪ドル/kgであるのに対し、日本産米は10.24豪ドル/kgであり、オーストラリア産米の2.5倍、米国産米の2倍になっています。

B 包装米飯の販売価格

オーストラリアでは様々な包装米飯が販売されています。代表的なブランドには「Tilda」「SunRice」「Ben's Original」等で、通常の単価は0.89～1.40豪ドル/100gとなっています。これらは長粒種を使用しており、原料は海外から調達されています。

C 米菓の販売価格

専門店やオンラインで購入できる日本産の米菓には、「天野屋の姫丸」や「Kameda」ブランドなどがあり、それぞれの価格は3.50豪ドル/98g、6.30豪ドル/120gです。一方、オーストラリアのスーパーマーケットで販売されている主流の米菓ブランドは、通常1.56～3.00豪ドル/100gで販売されています。

表-5 コメの販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (豪ドル)	販売単位での 円換算*
Aomori Masshigura	日本	5 kg	51.20	4,805
Nishiki Premium Grade Rice	米国	1 kg	5.75	540
Hime Rice Premium Short Grain	台湾	5 kg	10.99	1,031
SunRice Medium Grain Calrose Rice	オーストラリア	5 kg	19.00	1,783

表-6 包装米飯の販売価格(調査月:2023年8月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (豪ドル)	販売単位での 円換算*
Tilda (Coconut, chilli and lemongrass basmati rice)	英国	250 g	3.50	328
SunRice (Long grain white rice)	オーストラリア	450 g	4.00	375
SunRice (Brown rice & quinoa)	タイ	125 g×2	3.50	328
Ben's Original (Lightly flavored lime rice)	タイ	250 g	3.00	282

表-7 米菓の販売価格(調査月:2023年8月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (豪ドル)	販売単位での 円換算*
Fantastic Original	タイ	100 g	2.30	216
Peckish Cheddar Cheese	タイ	100 g	1.75	164
Amanoya Hime Maru	日本	98 g	3.50	328
SunRice Salt & Balsamic Vinegar	オーストラリア	160 g	2.50	235
SunRice Salt & Balsamic Vinegar	オーストラリア	160g	2.50	235

*1豪ドル=93.86円換算

6

インターネット販売の実態

EC市場規模の年間成長率は15.5%

米国の通商代表部の調査によれば、オーストラリアのEC市場規模は世界で第11位であり、2020年には257億米ドルであったものが2024年には323億米ドルに達する見込みであり、年率15.5%の勢いで成長しています。現在では、オンラインショッピングは小売業の総売上高の11%を占めるまでになっています。主要なECプラットフォームはeBay、Amazon及びWoolworthです。また、インターネット販売の9割はBtoCであり、消費者はECに慣れていると言えます。

コメ・コメ加工品については、これらの大手サイトに加えて、輸入卸業者や専門店からも購入が可能です。

主要ECサイト	a . eBay Australia	https://www.ebay.com.au/
	b . Amazon Australia	https://www.amazon.com.au/
	c . Woolworths	https://www.woolworths.com.au/
	d . Coles Online	https://www.coles.com.au
	e . Jun Direct (コメ及びコメ加工品を含む日本食品を扱う)	https://www.jundirect.com.au/
	f . Thanks Mart (コメ及びコメ加工品を含む日本食品を扱う)	https://www.thanksmart.com.au/

7

輸出拡大に向けて

ジャポニカ米は現地でも生産されており、日本産米はオーストラリアのコメ市場において1%未満の存在であり、現地での日本産米の認知度は限られています。そのような状況の中で日本産米の需要を拡大するためには、やはり「日本食」の普及を追い風にする事が適しています。より高品質な商品で高価格・高マージンという戦略を取るレストラン事業者や中食事業者と組み、「高いから売れない」ではなく「高いから儲かる」を提案していくことが重要になります。